

環境政策論 問題【1】

以下の問1と問2に答えなさい。

問1 次の語句の中から4つを選び、それぞれ200字程度で説明しなさい。解答の順番は問わないが、選択した(1)～(8)の番号を各解答の冒頭に明記しなさい。

- (1) ネガティブエミッション
- (2) 再生可能エネルギーの固定価格買取制度
- (3) ネイチャーベースドソリューション
- (4) 拡大生産者責任
- (5) 足尾鉍毒事件
- (6) 福島第一原子力発電所事故
- (7) 環境アセスメント
- (8) 第六次環境基本計画

問2 環境政策の手法を大きく分類し、それぞれについて具体例を挙げなさい。

環境政策論 問題【2】

本問題冊子にある他分野の問題から1問(分野名 問題【X】)を選択し、それに解答しなさい。なお、解答用紙の所定欄に、選択した分野名と問題番号、受験番号を明記すること。

経済環境論 問題【1】(Economic Environment: Question 1)

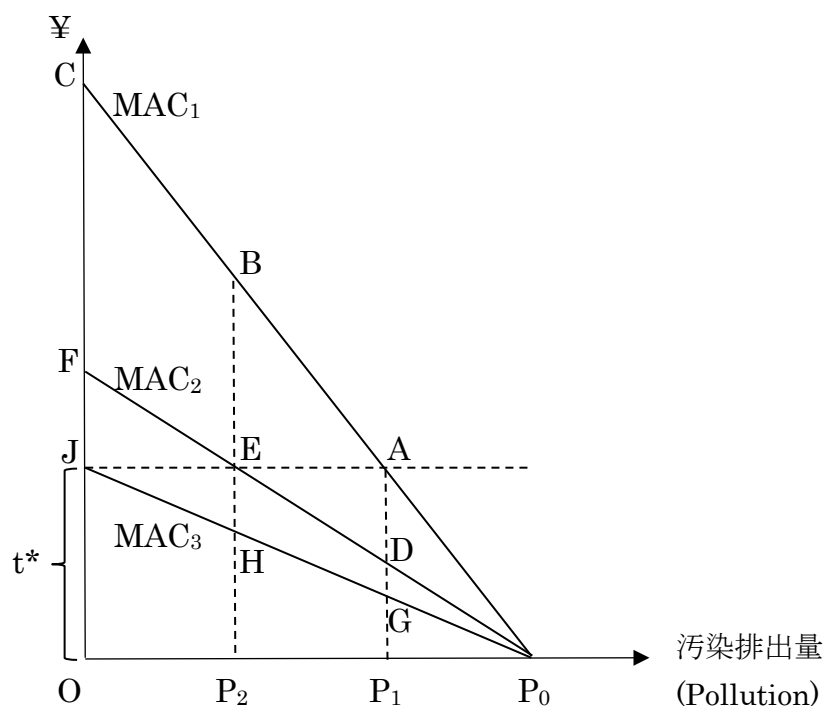
政府が環境税の課税，環境基準の設定のどちらを導入するか検討している．社会に3つの企業があり，下図のようにそれぞれ異なる限界削減費用（MAC）を持っており， $OP_2 = P_2P_1 = P_1P_0$ とする．以下の問いに答えよ．

1) 3社に対して，環境税を導入し一律税率を t^* に設定する場合と， P_2 という一律の環境基準を設定する場合，どちらが社会全体の汚染削減費用を低くできるか検討したい．下図を用い説明せよ．なお，1)では費用負担として汚染削減費用のみを考え，税負担は考慮しない．

2) 費用負担として汚染削減費用だけでなく，環境税の負担も考慮する場合，どのような課題が生じるか，説明せよ．

A government considers whether it should impose an environmental tax or set an environmental standard. Assume that there are three firms in a society, each firm has a different marginal abatement cost (MAC), and $OP_2 = P_2P_1 = P_1P_0$. Answer the following questions.

- 1) Explain which policy could lower the total abatement costs in this society, imposing a tax rate at t^* or setting an environmental standard at P_2 on all 3 firms, by using the following figure. Note that in question 1), only abatement costs should be considered as a financial burden for firms, excluding tax payments.
- 2) Explain what kind of issues could arise if we consider tax payments as a financial burden for firms.



経済環境論 問題【2】(Economic Environment: Question 2)

2つの生産要素 (L と K) を使用して、生産を行う企業を考える。生産関数は $L^\alpha K^{1-\beta}$ で与えられ、 $0 < \alpha < 1$ かつ $0 < 1 - \beta < 1$ とする。生産する財の価格を P とする。 L の価格は W 、 K の価格は R とする。この企業は価格受容者 (プライス・テイカー) である。

Consider a private firm that employs two factors of production (denoted as L and K). The production function is $L^\alpha K^{1-\beta}$, where $0 < \alpha < 1$ and $0 < 1 - \beta < 1$. The price of the output is denoted as P . The prices of L and K are denoted as W and R , respectively. This firm is a price taker.

以下の問いに答えなさい。

Answer the following questions.

- (1) L と K の限界生産力を導出しなさい。また、技術的限界代替率を導出しなさい。

Derive the marginal products of L and K . Moreover, derive the marginal rate of technical substitution.

- (2) 本問題の生産関数が“規模に関する収穫逨減”を満たす条件を示しなさい。

Show the condition under which the production function exhibits decreasing returns to scale.

- (3) この企業が利潤最大化を行う場合に生ずる、生産要素 L と K の需要関数を導出しなさい。

Derive the factor demand functions for L and K resulting from profit maximization.

- (4) P 、 W 、 R の3つの価格が一律同じ割合で変化しても、生産要素需要は変化しないことを証明しなさい。

Prove that the factor demands do not change if P , W , and R change by the same percentage.

経済環境論 問題【3】(Economic Environment: Question 3)

$V(X)$ と $V(Y)$ は、それぞれある確率変数 X と Y の分散を表す。また、 $Cov(X, Y)$ は確率変数 X と Y の共分散を表す。

$V(X \pm Y) = V(X) + V(Y) \pm 2Cov(X, Y)$ が成り立つことを証明しなさい。

$V(X)$ and $V(Y)$ denote the variances of random variables X and Y , respectively. $Cov(X, Y)$ denotes the covariance of random variables X and Y .

Show that $V(X \pm Y) = V(X) + V(Y) \pm 2Cov(X, Y)$.

経済環境論 問題【4】(Economic Environment: Question 4)

企業間の関係は、資源の依存関係で成り立っていると考えられる。企業Aは、その事業活動を遂行するために、企業Bの資源を必要としているとします。以下の2つの問いに答えなさい。

The relationship between companies can be viewed as a resource dependency. Assume that the business activities of Company A require the resources of Company B. Answer the following two questions.

(1) 企業Bに対する企業Aの資源依存度は、どのような要因によって決定されるでしょうか。

What factors determine the resource dependency of Company A on Company B?

(2) 企業Aが、企業Bへの資源依存度を減少させるためには、どのような方策が考えられるでしょうか。

What actions could Company A take to reduce its resource dependency on Company B?

経済環境論 問題【5】(Economic Environment: Question 5)

組織文化の定義を説明し、強い組織文化の機能と逆機能について述べなさい。

Explain the definition of organizational culture and describe the functions and dysfunctions of a strong organizational culture.

環境法政論 問題【1】 Environmental Law and Politics 【1】

日本における、環境保全に関する法律と条例の関係について、説明しなさい。

Explain the relationship between national laws and prefectural/municipal ordinances concerning environmental protection in Japan.

環境法政論 問題【2】 Environmental Law and Politics 【2】

捕鯨の国際的規律について、「国際裁判と科学」の観点から論じなさい。

Discuss international regulation of whaling with a particular focus on “international adjudication and science.”

環境法政論 問題【3】 Environmental Law and Politics 【3】

環境政治における参加の意義を、具体例を踏まえながら論ぜよ。

Discuss the significance of participation in environmental politics based on specific examples.

環境法政論 問題【4】 Environmental Law and Politics 【4】

任意の環境問題に関するグローバル・ガバナンス上の課題について、関連する政策や主体を踏まえながら論ぜよ。

Discuss the challenges for global governance of any environmental issue you choose, with reference to relevant policies and actors.

社会学 問題【1】

1 以下の語句について簡潔に説明しなさい。

- (a) 規律権力 (disciplinary power)
- (b) 文明化 (civilization)
- (c) 関係人口 (related population)
- (d) 偏相関 (partial correlation)

2 現代の中間層 (middle class) について社会学的なテーマを設定し、具体的に論じなさい。

社会学 問題【2】

1 以下の語句について簡潔に説明しなさい。

- (a) トランスナショナリズム (transnationalism)
- (b) 作業仮説 (working hypothesis)

2 以下の文章を読んで、設問1～5に答えなさい。

【著作権保護のため問題文は割愛】

【著作権保護のため問題文は割愛】

出典：Claudine McCreadie, “Technology and Older People,” Dale Dannefer and Chris Phillipson (eds.), *The SAGE Handbook of Social Gerontology*, SAGE Publications, 2010.

設問

- 1 下線部(a)を日本語に訳しなさい。
- 2 下線部(b)に当てはまる本文以外の事例を一つ挙げて説明しなさい。
- 3 下線部(c)を日本語に訳しなさい。
- 4 下線部(d)を日本語に訳しなさい。
- 5 あなたが高齢者向けサービスを開発するとしたら、どのような工夫が可能か。本文の内容をふまえつつ、自分の考えを述べなさい。

地理学 問題【1】

以下の問1と問2の両方に答えなさい。

問1 都市計画とは具体的にどのようなものであり、これまでの地理学的研究ではいかに捉えられてきたかを説明しなさい。併せて、都市計画に関する今後の地理学の研究に何が求められるのか、あなたの考えを述べなさい。

問2 以下の4つの中から2つを選び答えなさい。

- (1) 都市空間内部でのセグリゲーションについて説明しなさい。
- (2) 斜面の地形変化と土砂移動現象のメカニズムについて説明しなさい。
- (3) 具体的な城下町を1つ取り上げ、城下町プランについて説明しなさい。
- (4) 測地系、投影法、座標系について相互に関連付けながら説明しなさい。

地理学 問題【2】

次の英文を読み、下の問1～問3のそれぞれに答えなさい。

【著作権保護のため問題文は割愛】

【著作権保護のため問題文は割愛】

出典 : Baker, A. R. H. (2003) *Geography and History: Bridging the Divide*,
Cambridge University Press, pp. 129-130から抜粋のうえ一部改変

- 問1 枠線で囲まれた (a) の箇所を全訳しなさい。
- 問2 Sauerにとっての歴史地理学とは、どのような視点に基づくものであったのか、この英文全体に即して詳しく説明しなさい。
- 問3 Sauer以降から現在に至る地理学の景観論のうち、英語圏における代表的な研究例の1つについて、論者の名前を挙げながら内容を説明しなさい。